

資料 3

今年度の取組（案）

1. 共有が可能な情報の拡大

- 災害対応にあたる国・地方公共団体・事業者等が共有できる情報の更なる拡大と、情報の粒度の向上を目指し、関係者との調整を継続して行い、関係機関が個々に収集・管理している災害情報のデータでの共有促進を図る。
- 公開可能な情報のクライシスレスポンスサイトにおける公開や、民間における情報の活用を促進する。

2. 地方公共団体との連携モデルの検討

- ISUTと地方公共団体との連携モデルとなる地方公共団体を選定し、地方公共団体への効果的な支援や地方公共団体による効果的な活用のあり方を検証する。

3. ISUTの機能向上

- 実災害対応や訓練において明らかとなった課題への対応や、1. 及び2. の取り組みを通じて、ISUTの機能向上を図っていく。

4. ビッグデータや衛星データの活用方策の検討

- 携帯電話基地局やGPSから得られる位置情報を活用した被災者の位置を把握する技術について、引き続き実用化に向けた検討を行う。
- 災害対応にあたる関係機関のニーズを、人工衛星から得られるデータとマッチングさせることで、その具体的な活用方策について検討を行う。

①地方公共団体との連携モデルの狙い

- ISUTによる効果的な支援や地方公共団体による効果的な活用のあり方を検証
 - ・ どのような災害対応に対し、どのタイミングで、どのような地図を提供することが効果的か
 - ・ 多様な情報の収集・整理・提供を、どのような手段や手順で行うことが迅速かつ効率的か

②対象地方公共団体の選定の考え方

- 都道府県等の意向を確認した上で、以下のような類型から選定
 - ・ 都道府県と市町村が共通の防災情報システムを構築しており、防災情報システムとSIP4Dとの接続を前提に、市町村をはじめとする関係機関とのデータの共有・活用を行うパターン
 - ・ 都道府県の防災情報システムを介さずに、複数市町村や都道府県と直接データの共有・活用を行うパターン

- 全世界の主要な地球観測衛星の用途等を調査し、防災に利活用可能な情報を抽出する。
- 地方公共団体や指定公共機関等の、災害対応におけるニーズを調査し、衛星データ利用の観点で整理する。
- 災害対応者のニーズと適応可能性の高い衛星データを結びつけ、実用化に向けた課題を整理する。

衛星データ

防災への利活用技術を調査

全世界の衛星の調査

現状

- ALOS-2
- GCOM-W
- GCOM-C
- GOSAT
- ひまわり 8,9
- NOAA
- Landsat 7,8

将来

防災に利活用可能な情報の抽出

- 先進光学衛星による解析
- 先進レーダー衛星による解析
- 準天頂衛星によるGPS解析
- ...

マッチング
可能性の高い
技術と課題を
調査・検討

地方公共団体、指定公共機関… ニーズを調査

- ①ヘリ画像よりも広範囲の被災状況を一度に確認したい
- ②航空機が飛べない悪天候でも浸水範囲を把握したい
- ③夜間でもインフラ設備の異常の有無を確認したい
- ④停電でも安定した通信環境を維持したい
- ⑤指定避難所でない駐車場に避難している車の台数を把握したい
- ...

ニーズを集約

衛星データの活用に係る課題調査結果

- ①広範囲の被災状況の把握技術 ⇒ 先進光学衛星データの利用
★課題：衛星データへのアクセス手法の実装
夜間はレーダ衛星データによる補完の検討が必要
→防災分野への活用には…。

②…